

〔鑑囊抄七〕馬藥師クムシヲ伯樂ト云何ゾ、文字如何ニ、伯樂ト書ク是古人ノ名也、昔漢朝七雄戰國ノ時ノ馬相人也、故ニ日本ニモ馬醫師ヲ伯樂ト云也、又伯樂ハ元ヨリ星名也、此星典天馬、仍相馬者伯樂ト云、旁故ヘアル也、俗ニハクラクト云、和ゲテ云心ニヤ、又云誤ル歟、文選ニハ張里ヲムクスシトヨメリ、然レバムマクスシト云ン時ハ、張里ト可書也、近頃ハ小河ノ乘澄コソ無雙ノ伯樂ニテ、安驥ト云名書ヲ作ラレケル也、

〔吾妻鏡二十五〕承久三年六月十八日辛未、武藏太郎秘藏馬一兩匹、於宇治中矢、其鏃込身中、于今不出之、慙雖不斃、太辛苦、雖訪諸人、稱無其治術之由、生虜西面中有友野右馬允、遠久者、飼馬之藝、可謂古伯樂、聞此事、可治之由云云、武州頻入、興則引送彼馬之處、拔鏃療養、忽得愈也、珍事由世以謳詠云云、

〔一話一言六〕武具要說の中に

一今川義元ノ家中ニ米マキト申ス伯樂股フリアシキ馬ノ筋ヲ切申候、

〔玉勝間八〕馬子

西宮記に、馬子六人馬子四人など見えたり、馬につきたる者なり、今の世にまごといふはこれなり、

〔安東郡專當沙汰文〕一濱下者籠擲コカヲダゲ日卽下之、彼時馬子酒專當方マコトテ五升出之、前々彼酒直料百文出之云云、近代酒五升出之也、丁部等面々馬一疋口付一人宛出之、御糶俵餅俵等津湊度々員下之間、湊漕丁部請取之、御船奉積之、

〔享保集成絲綸錄四十五〕承應四未年三月

一馬士馬ニ乘候事、此以前ヨリ御法度ニ被仰付候處、猥ニ罷成候由被聞召候ニ付、芝口者札之辻ヨリ内、淺草口は駒形堂ヨリ内、其外下谷本郷小石川牛込之御門、市ヶ谷之御門、糶町之御門、赤